

ガンビア

2020 年 8 月 26 日ドラフト作成

2023 年 4 月 6 日更新

2025 年 2 月 20 日最終更新

※更新した項目に更新日を記載しています。

1. 一般情報	1
(1) 地理・人口等	2
(2) 内政	3
2. 人権状況	5
3. 関連する政治組織等、政治活動／政府批判（労働運動含む）の取扱い	5
(1) 野党メンバー／支持者の状況 <2025 年 2 月 20 日更新>	5
(2) 旧政権関係者 <2025 年 2 月 20 日更新>	7
4. ジェンダー、DV および子ども	13
(1) 女性 <2023 年 4 月 6 日更新>	13
(2) FGM/C <2025 年 2 月 20 日更新>	14
(3) 魔女狩り <2025 年 2 月 20 日訳文更新>	16
5. LGBT <2023 年 4 月 6 日更新>	17
6. 汚職、非国家主体による犯罪、国家による被害者の保護 <2025 年 2 月 20 日更新>	18
7. 兵役、強制徴集（非国家主体の）<未調査>	20
8. 司法制度・刑事手続	20
(1) 司法制度	20
(2) 刑事手続	20
9. 警察・治安部隊（刑務所等の状況含む）	20
(1) 国軍	20
(2) 刑務所	21
10. 報道の自由 <2025 年 2 月 20 日更新>	21
11. 宗教の自由	22
12. 国籍、民族および人種	23
13. 出入国および移動の自由	24
略称	24

1. 一般情報

(1) 地理・人口等**ア 外務省「[ガンビア基礎データ](#)」(2024 年 9 月 30 日)**

- | | | |
|---|----|--------------------------------|
| 1 | 面積 | 11,300 平方キロメートル (ほぼ岐阜県の面積) |
| 2 | 人口 | 約 277 万人 (2023 年 : 世銀) |
| 3 | 首都 | バンジュール (Banjul) |
| 4 | 民族 | マンディンゴ, フラ, ウォロフ, ジョラ, セラフリ等 |
| 5 | 言語 | 英語 (公用語), マンディンゴ語, ウォロフ語, フラ語等 |
| 6 | 宗教 | イスラム教 (90%), キリ基督教・伝統宗教 (10%) |

イ EASO「[EASO COI レポート : ガンビア 国別フォーカス](#)」(2017 年 12 月)**1.3 人口、民族、言語**

ガンビアは、アフリカの中で最も人口密度の高い国の一つである。2013 年に行われた人口調査によると、ガンビアの人口は、1,857,181 人であった。2017 年 7 月時点の推計によれば、人口は 2,051,363 人である。その内訳は、60%が、25 歳以下の若者である。2013 年の平均余命は、男性が 61.8 歳、女性が 66.5 歳で、あった。

総人口の 58%は、都市部又はその郊外に住んでいる。ザンビア川の河口にある地方自治体地域のバンジュール、カニフィン及びブリカマは、ビジネスと旅行業の中心である。一般的に、これらの地域は、他の地域よりもインフラが進んでおり、さらに、最も優れた医療機関及び学校が存在する。カニフィン及びブリカマ地方行政区 (LGA) は、人口が最も多いが、最も人口密度が高い地域でもある。

ガンビアの首都はバンジュールであり、2013 年のその人口は、31,000 人である。他の重要な都市は、セレクンダ及びブリカマである。人口調査は、地方自治体地域のデータを収集しており、都市部のデータを収集していないので、最新の公式人口は、入手不可能である。

1.3.1 民族

ガンビアにおける最も重要な民族は、以下の通りである。

- ・マンディンカ (Mandinka) (マンディンゴ (Mandingo)、メンデ (Mende)、マリンカ (Malinke) としても知られており、ジャハンカ (Jahanka) を含む)、2013 年時点のガンビア総人口 (非ガンビア人を除く) の約 34%を占める
- ・フーラ (Fula) (フルベフラニ (Fulbe Filani)、ペウル (Peul)としても知られており、チュクルー (Tukulur)、ロロボ (Lorobo) を含む)、ガンビア総人口の約 24.1%を占める。
- ・ウォロフ (Wolof 又は Wollof)、ガンビア総人口の約 14.8%を占める。
- ・ジョラ (Jola) (ディオラ (Diora) としても知られており、カロニンカ (Karoninka) を含む)、ガンビア総人口の約 10.5%を占める
- ・セラフーリ (Serahuli) (セラフーレ (Serahule)、サラコーレ (Serakole) 及びソ

- ニンケ (Soninke) としても知られている)、ガンビア総人口の約 8.2%を占める。
- ・セラー (Serer) (又はセレーレ (Serere))、ガンビア総人口の約 3.1%を占める
- ・マンジャゴ (Manjago) (マンジャック (Manjack) として知られる)、ガンビア総人口の約 1.9%を占める
- ・バンバラ (Bambara)、ガンビア総人口の約 1.3%を占める
- ・アク (Alku)、ガンビア総人口の約 0.5%を占める

1.3. 言語

ガンビアの現地語は、ただガンビアだけで話されているわけではない。ガンビアの現地語は、近隣諸国でも話されている。下記に記載されている言語リストにおいて、大部分の人口は、複数の言語を話すので、民族と言語の間に完璧な組み合わせはないということを留意すべきである。都市部においては、たとえば、様々な民族の多くの人々は、共通語となったウォロフを話す。ガンビアにおいて、最も頻繁に話されている言語は、以下のとおりである。

- ・マンディンカ (ジャハンカを含む)
- ・ウォロフ
- ・フーラ (又はフルフルデ (Fulfulde)、ペウルであり、チュクルー及びロロボを含む)
- ・セラフーレ (又はソニンケ サラコーレ (Soninke Sarakole)、マラカ (Maraka))
- ・ジョラ (又はディオラ、カロニンカを含む)
- ・セラー (又はセレーレ)
- ・マンジャゴ (Manjago) (又はマンジャック (Mandjak))
- ・アク (クレオレ (Creole)、英語に基づく)

※ 法務省入管局による仮訳

(2) 内政

ア 外務省「[ガンビア基礎データ](#)」(2024 年 9 月 30 日)

5 内政

1994 年 7 月、ジャメ中尉を中心とするガンビア兵は、1970 年に共和制への移行以来安定した内政により長期政権を維持してきたジャワラ大統領(当時)を無血クーデターで追放し、軍事政権を樹立、同中尉が大統領に就任した。新政権による 2 年間の民主化移行期間を経て、1996 年 9 月の大統領選挙の実施によりジャメ候補が当選、さらに、1997 年 1 月に国民議会選挙が実施され、国民議会の召集により民政移管を完了し、国際社会との関係を改善した。

2016 年 12 月に行われた大統領選挙において、野党統一候補のアダマ・バロウが新大統領に選出された。ジャメ大統領は当初、敗北した結果を受け入れると表明したが、同年 12 月 9 日に一転して選挙のやり直しを求め、バロウ新大統領への政権

移行を拒否したため、西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）加盟国及びモーリタニアを中心に首脳レベルの調停が行われた。ジャメ大統領の任期が終了した 2017 年 1 月 19 日、バロウは、滞在中の駐セネガル・ガンビア大使館において大統領就任式を行った。同年 1 月 21 日、ジャメ大統領は調停を受け入れ、ガンビアを出国した。同年 1 月 26 日、バロウ大統領がガンビアに帰国。

2020 年 1 月、バロウ大統領は自身が過去に所属していた UDP との関係悪化を背景として、新党（国民党）を立ち上げた。

2022 年 4 月、国民議会選挙が平和裡に行われ、バロウ大統領率いる国民党（NPP）が第一党となり、政権基盤を盤石なものとした。

《更新前》外務省「ガンビア基礎データ」（2020 年 4 月 27 日）

5 内政

…（2017 年）1 月 21 日、ジャメ大統領は ECOWAS 加盟国等及びモーリタニアが主導する調停を受け入れ、ガンビアを出国した。同年 1 月 26 日、バロウ大統領がガンビアに帰国。同年 4 月 6 日、ガンビア国民議会選挙が行われ、統一民主党（UDP）が 31 議席を獲得し与党第一党となった。

…

イ ●ベルテルスマン財団「[BTI 2024](#)」（2024 年 3 月 19 日）＜ecoi＞

概要

During the period under review, The Gambia has experienced two significant developments. One of these is the ongoing, albeit uneven, consolidation of democratic gains resulting from the transition away from Yahya Jammeh's autocratic rule, which ended in early 2017, to the democratically elected Adama Barrow (who secured re-election in 2021). Notably, during this period, the Barrow government accepted the majority of the recommendations proposed by the Truth, Reconciliation and Reparations Commission, established to investigate abuses during the Jammeh era. However, the implementation of these recommendations has been inconsistent. Overall, these democratic gains have manifested in consecutive free and fair elections at both the national and local levels, as well as a widespread improvement in human rights and governance. However, in certain critical areas, such as anti-corruption efforts and security sector reform, progress has been sluggish. Instances of law enforcement abuse and apparent self-dealing by public officials have also contributed to declining enthusiasm among the Gambian population. Barrow's decision to break away from his former party, the United Democratic Party, and form a new electoral alliance with a faction of Jammeh's former party, has not improved this perception.

…

ウ EASO [「EASO COI レポート：ガンビア 国別フォーカス」](#) (2017 年 12 月)

1.2 近況

…1994 年ヤヒヤ・ジャメは、無血軍事クーデターによって、政権の座についた。2 年の間、ガンビアは、ジャメが率いる AFPRC によって運営された。1996 年、ジャメは、選挙において大統領として承認され、2001 年、2006 年及び 2011 年に再選された。彼とその党である APRC は、それ以来、同国を支配している。2013 年、ジャメは、同国がイギリス連邦から即座に撤退すると公表した。2015 年、彼は、ガンビアをイスラム共和国と宣言した。2016 年、彼は、国際刑事裁判所からの退会を公表した。

驚くべき結果として、ジャメは、2016 年 12 月に行われた大統領選挙において敗れた。その代わりに、反対派の候補であるアダ P マ・パロウが大統領として選出された。ジャメは、当初、自身の敗北を受け入れていたが、2、3 日経過した後、不正疑惑があるとして、選挙の結果に異議を唱え、国家緊急事態を宣言した。ガンビアは憲政の危機を迎えた。国際的な抗議者、何週間にも及ぶ交渉及び西アフリカ国家経済共同体からの軍隊の介入によって、当該危機は、流血なくして終結を迎えた。危機が強まるにつれて、少なくとも 45,000 人のガンビア人は、一時的に同国を去り、セネガルに保護を求めた。2017 年 1 月 19 日、パロウは、セネガルのガンビア大使館において、正式に就任した。2017 年 1 月 21 日、ジャメは、同国を去り、赤道直下の国であるギニアへ亡命した。2017 年 1 月 26 日パロウは、ガンビアへ戻ってきた。

※ 法務省入管局による仮訳

2. 人権状況

ア 米国国務省 [「人権状況報告 2022 年 - ガンビア」](#) (2023 年 3 月 20 日)

重大な人権侵害の事例として、信頼できる報告では以下が挙げられている：政府による拷問および残虐・非人道的・品位を傷つける取扱または刑罰；過酷で命を脅かす刑務所の処遇環境；家庭内暴力、性的暴力、児童婚、女性性器切除等を含む、ジェンダーに基づく暴力に対する不十分な調査・説明責任；合意に基づく成人の同性間の性行為を禁じる法律（但し適用は稀である）。

3. 関連する政治組織等、政治活動／政府批判（労働運動含む）の取扱い

(1) 野党メンバー／支持者の状況

<2025 年 2 月 20 日更新>

ア ●ベルテルスマン財団 [「BTI 2024」](#) (2024 年 3 月 19 日) <ecoi>

2 | Political Participation

Gambian elections are generally considered free and fair since Barrow came to power. The Gambian constitution guarantees universal suffrage for all Gambians over the age of 18. There are no indications that specific groups are denied these rights, though Gambians

in the diaspora are not able to vote (making voting accessible to diaspora Gambians is under debate in The Gambia, but no practical changes have been made to realize this goal).

The 2021 presidential election, in which Barrow was re-elected to a second term, as well as the 2022 legislative and local elections, were all deemed consistent with democratic norms by most domestic and international observers. A controversy during the 2021 election was that the Independent Election Commission (IEC) only approved six presidential candidates out of an original field of 26. The IEC argued that this was because the rejected candidates failed to meet certain criteria, such as a sufficient number of signatures on their election applications. The courts judged a lawsuit by some of the rejected candidates in their favor, though the affected candidates failed to qualify in the end anyway. There is no indication that this avoidable mishap was due to political interference, but rather due to a lack of resources and clear operating procedures. This is consistent with multiple observers' findings that critical funding shortfalls affect the IEC's ability to fulfill its mandate. Nonetheless, the IEC's management of the elections (and the preceding registration drives) is generally viewed as adequate.

...

There is no public funding for elections in The Gambia. Coupled with the country's relatively meager resource base, this means that party funding is largely dependent on a few well-heeled Gambians and the Gambian diaspora. Election campaigns tend to be dominated by the incumbent and the major opposition party (in the most recent elections, this was Barrow and, in opposition, his former party, the United Democratic Party). Though not legally excluded, small parties tend to have difficulty accessing the media.

...

Freedom of association and assembly is guaranteed by the Gambian constitution, but this freedom was routinely abrogated by the Jammeh government. Under Barrow, the situation has improved – as is generally the case for human rights matters in the country – but there are still instances when permits for demonstrations are declined, seemingly without legitimate justification, or when the police respond to demonstrations with excessive force. Demonstrations permits come under the colonial-period Public Order Act (amended several times), which was upheld by the Supreme Court in 2018 and has been criticized by domestic and external observers alike for inconsistency with contemporary human rights standards.

...

5 | Political and Social Integration

The Gambia is home to a large number of political parties – 19 at the beginning of 2023 – but several of these are very small and do not have credible means to obtain power or significant influence. Only a handful of parties have deep social roots and the ability to mobilize a significant voter base. Most of these parties have roots in the Jammeh period or

earlier. For example, the United Democratic Party, which is today the largest opposition party, was founded in 1996 (early in the Jammeh period), and the smaller but politically influential People's Democratic Organization for Independence and Socialism was founded in 1986. In contrast, the Alliance for Patriotic Reorientation and Construct, which Jammeh founded, was the ruling party and akin to a mass movement under his rule. Now it is significantly reduced in size (though it still has representation in the National Assembly). The People's Progressive Party, the ruling party between 1965 and 1994, does not have a single seat in the National Assembly. The most recent significant party is arguably the National Peoples' Party, which President Barrow founded after his break with the United Democratic Party.

...

イ ●米国国務省「[人権状況報告 2023 年 - ガンビア](#)」(2024 年 4 月 23 日)

Violence and Harassment: In October, at political rallies during a national tour, President Adama Barrow criticized media organizations he believed opposed his party and told audiences he planned to detain those who expressed opposition to the government and warned of “crackdowns” on free speech. Following this, the president's office issued a statement that appeared to walk back Barrow's rhetoric, explaining he was merely calling for civility and his words were taken out of context. The statement called for “all Gambians” to uphold positive democratic values and offered reassurances press freedom would prevail, although with the proviso that “troublemakers,” “bullies,” and persons engaging in “hate speech” would be held accountable.

(2) 旧政権関係者

<2025 年 2 月 20 日更新>

ア ○難民研究フォーラム「[ガンビア：政治情勢に関する情報](#)」に課するクエリー回答 (2024 年 2 月 26 日)

① ジャメ元大統領と APRC (愛国再建同盟)

ア ●ベルテルスマン財団「[BTI 2024](#)」(2024 年 3 月 19 日) <ecoi>

History and Characteristics of Transformation

...

The Barrow administration has largely focused on restoring stability, bolstering national institutions and improving how these are perceived by Gambians and the international community. To achieve this, the administration launched an ambitious transitional program, backed by substantial international support. This included the establishment of a Truth, Reconciliation and Reparations Commission, a security sector reform initiative, and modifications to some of the more oppressive laws dating from the Jammeh era.

However, the success of this transitional program has been mixed, influenced by a combination of internal and external factors. Domestically, a pivotal factor is the breakdown of the coalition that ousted Jammeh from power. Barrow severed ties with his former party, the United Democratic Party, to form his own National Peoples' Party. In the country's unicameral legislature, the National Assembly, Barrow relies on support from smaller parties in addition to his own, including, controversially to many Gambians, remnants of Jammeh's party, the Alliance for Patriotic Reorientation and Construction.

...

2 | Political Participation

...

Political parties are required to pay a registration fee, considered excessive by some, and to have a nominal presence in the country's regions. Parties based on ethnic, regional or religious expression are prohibited by law, although in practice several parties are viewed as primarily protecting the interests of given groups. The former ruling party, AFPRC, for example, is tightly associated with the Jola ethnic group of former President Jammeh.

...

イ ●BAMF [「Briefing Notes \(2024 年 2 月 26 日\)」](#)

Tear gas used to disperse crowds at event due to alleged breaches of regulations

According to media reports, security forces used tear gas to disperse crowds at an event organised by the splinter group "No to Alliance" of the former ruling party Alliance for Patriotic Reorientation and Construction (APRC) in a locality in the city of Serekunda on 18.02.24. The event, which had initially been authorised by the authorities, was later dispersed due to alleged breaches of regulations. According to the leader of the movement, Yaya Tamba, a number of people were temporarily arrested. Several people required medical treatment after inhaling tear gas. "No to Alliance" rejects the coalition between the APRC and President Adama Barrow, which has been in place since 2021. It supports the exiled former president Yahya Jammeh, who continues to claim the APRC party chairmanship for himself and denies the legitimacy of the current APRC party executive committee.⁸

注 8 Standard: Police tear-gas NAM, APRC Faction Supporters, 20.02.24; Freedom Newspaper: Riot police used tear gas on a gathering of APRC No-To-Alliance Faction, one of them a national assembly Member, 20.02.24; Standard: UDP condemns use of tear gas on Jammeh's 'APRC' supporters, 20.02.24.

ウ EASO [「EASO COI レポート：ガンビア 国別フォーカス」](#) (2017 年 12 月)

1.6.3 ヤヒヤ・ジャメ (YahyaJammeh) 前大統領

ヤヒヤ・ジャメは、1965 年に生まれ、ガンビア川下流地方のカニライ村で育った。同氏は、ジョラ民族の出身で、3 回結婚している。ジャメは戦闘員で、ガンビア国家憲兵隊 (GNG) 及びガンビア国軍 (GNA) の士官を務めた。ジャメは、1994 年 7 月 22 日に、無血クーデターにより政権を掌握し、軍事暫定統治評議会の議長を 2 年間務めた。ジャメは、1996 年に、選挙で大統領に選出された。この選挙は、自由と公正からは程遠いものだと思なされた。ジャメは、2001 年、2006 年及び 2011 年に再選を果たした。ジャメは、1996 年の創設以来、所属政党の、愛国再建同盟 (APRC) の党首を務めた。

ジャメは、大統領選挙で敗北し、政治及び憲政の危機をもたらした後、2017 年 1 月 21 日に亡命した。ジャメの亡命先となった赤道ギアナは、国際刑事裁判所ローマ規程の締約国ではないため、ジャメが人道に対する又はその他の重罪で告訴されることになる場合でも、この国は同氏の身柄を引き渡す義務を課せられない。これにもかかわらず、新政府は、引渡し要請の可能性を思案している。

略称	政党名	党首 (政権交代前)	党の色	党のシンボル
APRC	愛国再建同盟	政権交代前：ヤヒメ・ジャメ 政権交代後：ファバカリー・トンボン・ジャッタ	緑	黒い背景にヤシの木

2.12 ジャメの支持者

2017 年 4 月に行われた議会選挙を挟んで、バロウの所属政党、UDP の支持者と APRC の支持者が衝突する事件が複数件発生した。APRC の新党首、ファバカリー・トンボン・ジャッタは、同同盟の多数の支持者が何度も嫌がらせを受けたり逮捕されたりしたと不服を申し立てた。内務省は、ジャッタが申し立てた逮捕事案は、武器又は武力が行使された時だけに行われたと回答した。

※ 法務省入管局による仮訳

エ IRBC [「クエリー回答 \[GMB105841.E\] : APRC メンバーの取扱い」](#) (2017 年 7 月 31 日)

APRC によると、2017 年 2 月 19 日、「ジャメの地盤」(2017 年 2 月 20 日付けロイター通信) であるカフェンダ [Kafenda] 村で APRC 支持者 51 名が逮捕された

と、メディアは報じている。さらにロイター通信の記事では、警察によると、これらの APRC 支持者は、新たに選出されたアダマ・バロウの就任式典から帰宅中だったバロウ支持者を「侮辱した」疑いで逮捕されたと報じられている。

...

デイリー・オブザーバー紙 [The Daily Observer] の 2017 年 4 月の記事では、警察の広報官による以下発言が引用されている。「APRC の熱狂的な支持者たちは、大勢で反対勢力に対し暴力的な罵声を飛ばし、UDP 支持団体の施設と思われる建物に石を投げる行為にまで発展したと報告を受けている」(2017 年 4 月 10 日付けデイリー・オブザーバー紙)。一方、モドウ・カマラ [Modou Camara] によると、APRC 支持者は 2017 年 4 月 6 日からカマラの勝利を祝い始め、UDP 支持者が APRC 支持者の通る「道を妨げていた」という (2017 年 4 月 10 日付けデイリー・オブザーバー紙)。カマラは本件を警察に報告し、祝宴を続けるようにと言われた (同上)。カマラによると、APRC 支持者は 2017 年 4 月 7 日に再び街頭でカマラの勝利を祝っていたところ、UDP 支持者が再び通行を妨げたため、衝突に発展した (同上)。裏付ける情報は、本回答の時間的制約内で 調査部門が諮問した情報源からは得られなかった。

24 名の APRC 支持者が「身体的危害を生じさせる暴行、公共秩序法第 9 項に反する治安の妨害につながる行為、『故意による』器物損壊」の罪で起訴された一方、2 名の UDP 支持者は「公共秩序法第 9 項に反する治安の妨害につながる行為および不法侵入」の疑いで起訴された (2017 年 4 月 10 日付けポイント紙 [The Point] ; 2017 年 4 月 10 日付けデイリー・オブザーバー紙)。

...

同記事では、APRC の戦闘員によると、ある野党支持者が「南西部の地域での騒動」に関する音声・動画ファイルを WhatsApp で送信した件で警察に逮捕されたと報じている (2017 年 6 月 12 日付け SMBC News)。警察は、同様に WhatsApp で「報告」を送付していた 2 人目を捜索しているという (同上)。裏付ける情報は、本回答の時間的制約内で 調査部門が諮問した情報源からは得られなかった。

オ 英国内務省「[出身国情報報告 ガンビア \(仮訳\)](#)」(2013 年 11 月 5 日)

5.04 この米国国務省の報告書では、次のように付記されている。「[ジャメ (Jammeh) 大統領の所属政党である]APRC は国民議会における 48 議席の内 43 議席を保有し、政治情勢を厳しく抑えつけ続けていた。APRC 議員には、政府取引の促進や、特定文書への入手が可能になり、雇用契約が確保されるなどの利点を与えられていた。」33(セクション 3)

カ 記事「[Gambia: Thousands march for ex-ruler Yahya Jammeh's return](#)」DW (2020 年 1 月 16 日)

ヤヒヤ・ジャメの支持者は、木曜日に、同氏の写真やプラカード、横断幕を掲げ

て、首都バンジュールの郊外に集まった。(ジャメは 1994 年から 2017 年 1 月に亡命するまで大統領を務めた。)

愛国再建同盟 (APRC) に属する抗議者たちは、赤道ギニアに亡命中のジャメの帰国を認める合意を国際機関および政府は尊重するよう要請した。

...

ジャメは 22 年間の統治中、反対派を暴力で抑圧し、拘禁・拷問・レイプ・国家命令による殺人を用いて、記者や学生リーダー、野党政治家を脅迫・口封じしてきた。

ガンビア人権侵害被害者センター [Gambia Center for Victims of Human Rights Violations] の所長は、木曜日の APRC 支持者によるデモを「ヤヒヤ・ジャメ支配の被害者への侮辱だ」と述べた。

バンジュールの Kijera 保安官は DW に対し、「APRC がジャメとその側近が犯した残虐行為を否認し続けていることは到底受け入れがたい」と語った。

...

「バロウは汚職の撲滅を怠っただけでなく、ジャメ所属政党の元党员と親しくする場面も見られている」と、ガンビア人権活動家 Madi Jobarteh は述べた。

キ 記事「[APRC 支持者 2 人が逮捕される、警察広報官が説明](#)」The FATU Network (2017 年 10 月 18 日)

ヤヒヤ・ジャメ元大統領の愛国再建同盟 (APRC) の支持者である Gibril Badjie と Ansu Badjie は、警察に逮捕され、現在バンジュールの警察本部に拘束されている。

Gibril はブリカマで、Ansu は上流地方の Sabi 村で逮捕された。彼らは、ボイスメッセージを録音・共有する「One Voice」という WhatsApp グループを作成した関係で逮捕された。

警察広報官である Foday Conta 警視補は、ファトゥ・ネットワークに対し、彼らは暴力の扇動に等しい行為に関係していたと述べた。

...

② 旧政権の職員等の状況

ア EASO「[EASO COI レポート：ガンビア 国別フォーカス](#)」(2017 年 12 月)

2. 旧職員の状況

前政権の職員に関連して新政権がこれまで講じてきた措置を見ると、事例ごとに進行するための、過去の司法調査に向けた慎重を期すアプローチを採用する傾向がわかる。しかし、依然として、訴訟は未決状態であるため、評価するのは時期尚早である。

...

2.6 精鋭部隊（国防軍及び大統領親衛隊）

2017 年 5 月に、以下の大統領親衛隊の隊員が起訴された。マリク・マンガ (Malick Manga)、ヌハ・パドジェ (Nuha Badjie)、スレイマン・サンボー (Sulayman Sambou)、モモドゥ・ジャノレジュ少佐 (Major Momodou Jarju)、ムスタファ・サネ (Mustapha Sanneh) 及びミカエル・ジャッタ (Michael Jatta)。司法省は、上記の個人を、トゥマニ・ジャロウ及びアブドウリエ・ゲイエの殺害への関与で告発した。ジャロウ及びゲイエは、ジャメの政党事務所の職員であったが、2016 年 12 月の大統領選挙でジャメが敗れた後、行方不明になった。殺害されたと見られている。

2.7 国家情報局

これまでに逮捕された NIA の職員は 9 人に上る。パンジュール治安判事裁判所は、2017 年 3 月に、9 人に有罪判決を言い渡した。最高幹部 2 人は、NIA の最高幹部、ヤンクパ・パドジェ事務局長及びシーク・オマー・ジェング、運営部長で、あった。

...

※ 法務省入管局による仮訳

③ ジャングラー、APRC 幹部の状況

<2023 年 4 月 6 日更新>

ア EASO [「EASO COI レポート：ガンビア 国別フォーカス」](#) (2017 年 12 月)

2.10 ジャングラー

ジャングラーは、ジャメに同行して赤道ギニアに亡命した者もいれば、行き先がわかっていない者もいる。2017 年 5 月に、2004 年に発生したデイダ・ハイダーラの殺害に関連して、サナ・マンジャング (Sanna Manjang) 及びカウス・カマラ (Kawsu Camara) (別称、爆撃手) に対する逮捕令状が交付された (セクション 3.1、報道の自由を参照)。サナ・マンジャングは、他の殺人罪でも告発されている。

警察の情報によれば、2017 年 5 月に、軍警察の職員であったジャヤグラー 9 人を拘禁したということである。現在、複数人の強制失踪、拷問及び殺人に関連する犯罪捜査が行われている。被拘禁者の身元に関する公式発表は行われなかった。伝えられるところによれば、拘禁されたのは、ムサ・ジョンソン (Musa Johnson)、パ・サネ (Pa Sanneh)、イズメイラ・ジャメ (Osmaila Jammeh)、オマル・アリアス・オヤ・ジャロウ (Omar Alias Oya Jallow) アマドゥ・パドジェ (Amadou Badjie) 及びマリク・ジャッタ (Malick Jatta) であるということである。上記の個人は、協力的な態度を示し、捜査官を被害者の遺棄現場に案内したということである。このジャングラーは、2017 年 7 月時点で、出廷していなかった。

2.11 APRC の幹部

ヤンクパ・コレイ

カニフィング市議会の市長。APRC の広報担当者として知られ、同性愛を公然と

糾弾することで有名。(セクション 3.3、ゲイ、レズビアン、同性愛者及び性同一性障害 (LGBT) の人々を参照)。解任要求に反して、市議会の市長の職位に留任。

ファパカリー・トンボン・ジャッタ

2017 年の議会選挙を控えた最後の定期会合まで国民議会の議長を務める。ジャメの亡命以降、暫定指導者を務める。

APRC の非合法化に向けた新政府の計画は、記録されていない。

※ 法務省入管局による仮訳

イ ○Asylos「[クエリー回答 \[AFR2022-12\] ガンビア：2014 年クーデター未遂事件とジャングラーズ \(La tentative de coup d'état de 2014 et les junglers\)](#)」(2022 年 4 月)

ウ ○OFPPRA「[ガンビア：ジャングラーズ \(Les Junglers\)](#)」EUAA COI ポータル (2021 年 9 月 27 日)

4. ジェンダー、DV および子ども

(1) 女性

<2023 年 4 月 6 日更新>

ア ●米国国務省「[人権状況報告 2022 年 - ガンビア](#)」(2023 年 3 月 20 日)

Rape and Domestic Violence: The law criminalizes rape without reference to gender and criminalizes domestic violence. The penalty for rape is life imprisonment. The maximum penalty for attempted rape is seven years' imprisonment. Spousal and intimate partner rape are not illegal. The penalty for domestic violence is two years' imprisonment, a substantial monetary fine, or both. The government did not enforce these provisions effectively.

Rape and domestic violence were widespread problems that often went unreported due to survivors' fear of reprisal, unequal power in relationships, stigma, discrimination, and pressure from family and friends not to report abuses.

The Ministry of Women's Affairs, Children, and Social Welfare operated a shelter and cooperated with UN agencies and civil society organizations to address sexual- and gender-based violence.

...

Discrimination: The constitution and law provide for equality of all persons, including race, color, gender, language, religion, political or other opinion, national or social origin, and birth. The law prohibits discrimination in employment, access to credit, owning and managing a business, housing, or education. Nevertheless, the law does not provide the same legal status and rights for women regarding adoption, marriage, divorce, burial, and inheritance of property. The government enforced the law effectively.

...

イ 米国国務省「[人権状況報告 2019 年 - ガンビア](#)」(2020 年 3 月 11 日)

女性

...

7 月 4 日、女性たちが「#IamToufah」というハッシュタグを掲げてデモ行進を行った。「#IamToufah」は、「#MeToo」運動の一環として、ジャメ元大統領による性的暴力、強姦を告発した若い女性 Fatou Toufah Jallow との連帯を示し、ガンビア社会に横行する性的暴力に関して問題提起する動きである。10 月、Jallow 氏および数名の女性は、TRRC にてジャメ時代の性的虐待やジェンダーに基づく暴力について証言した。

ウ ●英国内務省「[国別政策及び情報ノート - ガンビア：女性器切除 \(FGM\)](#)」
refworld (2016 年 12 月)

5.1.2 女性の健康国際ジャーナル [International Journal of Women's Health] が 2016 年 4 月に出版した報告書によると、「女性性器切除は、社会的・経済的・政治的構造に深く根付いており、女性の権利に深刻な影響を与え、人間開発指数 (177 か国中 155 位) の低下につながる重大な性差別という文脈で解釈すべきである。憲法上は男性と同等の権利を保障されているにもかかわらず、ガンビアの女性たちは、差別的な家族法 (慣習およびシャリーアによる結婚・寡婦の相続・一夫多妻制・離婚・子供の親権・女性の相続権の制限)、資産・財産の制限 (土地・金融サービス・雇用へのアクセスに関する差別的な風習)、身体的インテグリティの制限 (女性性器切除や家庭内暴力、妊婦のヘルスケアサービスの不足が依然として問題となっている) に直面している。

(2) FGM/C

<2025 年 2 月 20 日更新>

ア EASO「[COI レポート：ガンビア 国別フォーカス](#)」(2017 年 12 月)

3.4 女性器切除／切断 (FGM/C)

ガンビアでは、女性器切除／切断 (FGM/C) は、2015 年 12 月から非合法化されている。この禁止令に反して、女性器切除又は切断を要求、扇動又は助長する個人又は、この処置のための道具を提供する個人は、3 年以下の禁固刑及び／又は、50,000 ダラシ (およそ 1,000 ユーロ) の罰金刑に処されることになる。女性器切除又は切断の事実を知らながら、この非合法化処置の報告を怠る個人は、10,000 ダラシを支払わなければならない。女性器切除又は切断行為の結果、当該女児を死亡させる個人に対する刑罰は、終身刑である。

FGM/C はガンビア社会に深く根付いているため、この禁止令が存在しても、この慣行を撤廃するのは、ガンビアでは困難だということを理解するべきである。この法律に抵触しないようにするための抜け道もある。同法の本文では、他の国で行

う切断を明示的に非合法化していない。

ガンビアの人口動態保健調査 2013 年版によれば、15 歳から 49 歳の女性の 75% は、何らかの方法で女性器を切断された。15 歳以上の女性における、FGM/C の普及率は、年齢層によって若干ばらつきが見られる。統計データが示すところによれば、切断は、幼少期に行われており、女性の 55% は、5 歳になる前に割礼を受けたと報告した。5 歳から 9 歳までに割礼を受けた女性は、28% で、あった。残りの 7% は、10 歳から 14 歳までに割礼を受けたと答えた。2010 年現在、15 歳未満の女兒の 42.4% が何らかの FGM/C を受けていた。

実地調査の結果によれば、FGM/C は、都市部（15 歳から 49 歳の女性の 72%）よりも農村地帯の方が普及していた（15 歳から 49 歳の女性の 79%）。普及率はパセが最も高く（97%）、次いで、マンサコンコ（94%）が続き、パンジュールが最も低かった（47%）。世界保健機関の類型によれば、性器の切断及び切除に伴う介入治療は、主として、FGM1 及び 2 に相当するものである。

切断は、概ね、伝統的割礼師によって行われた。これより前（2010 年）の実地調査で明らかになったように、害 1] 礼は、民族集団によってかなりばらつきがある。最も普及率高いのはマンディンカで（96.7%）及びセラフーレで（97.8%）、最も低かったのはウォルフであった（12.4%）。

...

※ 法務省入管局による仮訳

イ ●米国国務省「[人権状況報告 2022 年 - ガンビア](#)」（2023 年 3 月 20 日）

Female Genital Mutilation/Cutting (FGM/C): The law bans FGM/C of girls and women. Authorities did not always enforce the law. Survivors and witnesses rarely reported abuses because they were uncomfortable implicating family or community members. According to UNICEF and NGOs, 76 percent of girls and women between ages 15 and 49 had been subjected to FGM/C as of 2020. Authorities made no FGM/C arrests during the year.

ウ ●IRBC「[クエリー回答 \[GMB106103.FE\]: 女性器切除 \(FGM\) の慣習; 同慣習に反対する人々や NGO の取扱い; 同慣習の被害者および同慣習に反対する者に与えられる国家保護 \(2016 年~2018 年 5 月\)](#)」（2018 年 5 月 18 日）

The United Nations Population Fund (UNFPA) reports in January 2018 that the percentage of females aged 15 to 49 who have undergone FGM went from 78.3 percent in 2005-2006 to 76.3 percent in 2010, and then to 74.9 percent in 2013, while that of girls ages 15 to 19 went from 79.9 percent in 2005-2006 to 77.1 percent in 2010, and then to 76.3 percent in 2013 [1] (UN Jan. 2018, 106).

A study on the changes and trends among health care professionals, published

in International Journal of Women's Health, states the following: "[t]here is ample evidence that FGM/C [female genital mutilation/cutting] is closely tied to ethnic affiliation, which seems to be the most decisive factor for its prevalence" (Kaplan et al. 12 Apr. 2016, 104). The data from the Multiple Indicator Cluster Survey (MICS) of 2010, published by the Gambia Bureau of Statistics and UNICEF, reports the following prevalence rates among women aged 15 to 49 based on the ethnic group to which the head of household belongs: Serahule [Sarahule] (97.8 percent), Mandinka/Jahanka (96.7 percent), Bambara (92.1 percent), Fula/Tukolor/Lorobo (87.3 percent), Djola/Karoninka (87 percent), Serer (43 percent), Wolof (12.4 percent), Creole/Aku Marabou (25 percent) and Manjago (18.1 percent) (The Gambia and UN June 2012, 164).

エ ●英国内務省「[国別政策及び情報ノート - ガンビア：女性器切除 \(FGM\)](#)」
refworld (2016 年 12 月)

2.5 Internal relocation

2.5.1 The Upper Tribunal in K and others found that as a general matter, a person at real risk of FGM in her home area is unlikely to be able to avail herself of internal relocation. Cogent reasons need to be given for a finding that the individual would be able to relocate safely, especially given the evidence that ethnic groups are thoroughly interspersed, the country is small and ethnic groups in different parts of the country are highly interconnected (para 128).

(3) 魔女狩り

<2025 年 2 月 20 日訳文更新>

ア EASO「[COI レポート：ガンビア 国別フォーカス](#)」(2017 年 12 月)

3.6 魔女狩り

2009 年の叔母の死後、ジャメは、叔母を死に至らしめた者を突き止めるためとされる魔女狩りの専門家をマリ及びギニアから呼び寄せた。数百人もの女性が投獄され、虐待を受け、幻覚誘発性物質を強制的に飲まされた。伝えられるところによれば、2 人が死亡した。この魔女狩りには、グリーンボーイズが深く関与したと考えられている (セクション 1.9.4、ジャングレー、ブラックボーイ、グリーンボーイを参照)。ジャメは、2016 年にも、魔女狩り師を使って、妖術師とされる個人を捜索した。

憲政の危機が発生した時期に、パロウがセネガルに短期間亡命していた間に、息子のハビブが犬に噛み殺された。これはジャメの仕業であり、魔女が関係しているという噂が流れた。パロウはこの噂に取り合わなかった。パロウ政権では、これまで、魔女問題が重要課題として正式に扱われたことはない。

※ 法務省入管局による仮訳

5. LGBT

<2023 年 4 月 6 日更新>

ア ●英国内務省「[国別政策及び情報ノート - ガンビア：性的指向とジェンダー・アイデンティティ又は表現、3.0 版](#)」（2023 年 2 月）

3. Risk

...

3.1.2 Consensual same-sex sexual activity for both men and women is illegal in The Gambia and carries a sentence of between 5 and 14 years in prison. An April 2013 amendment to the Criminal Code also criminalised the act of men dressing as women, which is punishable by fines and up to 5 years in prison. The former president, Jammeh, introduced the offence of ‘aggravated homosexuality’ which criminalises same-sex sex – regardless of consent – with, on the face of it potentially vulnerable groups, including minors and persons with disabilities, as well as ‘serial offenders’ and is punishable by life imprisonment (see Law, State attitudes and State treatment).

3.1.3 President Adama Barrow has stated that homosexuality is a ‘non-issue’ in The Gambia. However, a government statement from June 2020 said that there was no intention to decriminalise homosexuality or review its laws (See State attitudes).

3.1.4 While the criminalisation of same-sex sexual activity means that the arrest, detention and prosecution of LGBTI persons is a possibility, enforcement of the law is rare: the US State Department observed the government is not actively enforcing existing laws. Since President Adama Barrow formally took power in 2017 sources indicate a single case of prosecution and conviction of a Senegalese man for an ‘attempted unnatural offence’ in 2022. Although no conviction has been reported, in April 2022 a man was formally charged with “aggravated homosexuality” having been accused of sexual intercourse with a 12 year old boy (See Law and State treatment).

3.1.5 The Gambia is culturally and religiously conservative. While sources report low tolerance of, and discrimination in general against, LGBTI persons the available information is general and contains few details or examples of the nature or frequency of the discrimination experienced (see Societal attitudes and treatment).

3.1.6 There are no known LGBTI organisations operating in The Gambia (see Civil society and support organisations).

...

イ ●ACCORD「[ガンビアに関するクエリー回答：同性愛者／LGBTQI+の状況（Anfragebeantwortung zu Gambia: Lage von Homosexuellen/LGBTQI+）](#)」
ecoi.net（2022 年 9 月 28 日）

（機関翻訳）

Willingness of the state to protect against attacks by private individuals against

members of the LGBTQI+ community in The Gambia

...

According to a Gambian doctor who testified as an expert before the TRRC, violence against LGBTQI+ people is rarely reported. Homophobic violence often happens within the family and is hushed up outside the family circle. One researcher explains that since state arrests and prosecutions of LGBTQI+ people decreased under the new government, violence against LGBTQI+ people within society has increased. In January 2019, a radio presenter published the addresses of apartments inhabited by LGBTQI people and called on his listeners to attack them. His call had been heeded. With regard to violence within the family, a Gambian organization cited the example of a young man who was stabbed to death after his family found out that he was homosexual (SEM, 21. May 2021, pp. 25-26). No further information about the incident could be found.

Gayles TV reported in July 2019 that parents in The Gambia cut off their son's earlobe after learning he was gay. The family also called the police [The situation with the police is not described in the article, note ACCORD]. According to the young man, the removal of the earlobe is used for the public identification of homosexuals and pedophiles (Gayles TV, 28. July 2019).

<参考>●英国内務省「[国別政策及び情報ノート - ガンビア：性的指向とジェンダー・アイデンティティ又は表現、3.0 版](#)」（2023 年 2 月）

3. Risk

3.1.1 In general, the available evidence does not indicate that LGBTI persons face treatment which is sufficiently serious by its nature or repetition, or by an accumulation of measures, that amounts to persecution or serious harm from the state and/or non-state actors. The onus is on the person to demonstrate otherwise. Each case must be considered on its individual facts and merits.

...

3.1.7 There is no information amongst the sources consulted which specifically relates to state or societal mistreatment of lesbian, bisexual, trans or intersex persons (see State attitudes, State treatment and Societal attitudes and treatment).

6. 汚職、非国家主体による犯罪、国家による被害者の保護

<2025 年 2 月 20 日更新>

ア ●ベルテルスマン財団「[BTI 2024](#)」（2024 年 3 月 19 日）<ecoi>

2 | Political Participation

...

On a more local level, traditional authorities and kinship groups hold considerable sway in everyday life. There are incidents where state authorities defer to these, mainly in matters such as domestic disputes rather than policymaking.

...

9 | Private Property

...

There have also been reports of corruption and self-dealing in the allocation of land by government officials down to the level of village chief. These officials, known as alkalos, are technically appointed by the government. However, in practice, such appointments often merely ratify a traditional practice of inherited authority.

...

15 | Resource Efficiency

...

The Gambia has made significant improvements to its anti-corruption efforts on paper. The National Assembly is in the process of adopting a new Anti-Corruption Act (it has passed successive readings in the legislature, as required by Gambian law, but has not yet passed). This will establish a new Anti-Corruption Commission and allow for imprisonment or levying fines against public officials convicted of corruption. This is a much-delayed promise by the Barrow administration (and by his predecessor; an early anti-corruption act in 2012 is largely considered to have had minimal concrete impact). At this point, it is too early to tell whether this new commission, once in place, will have a significant impact. In 2021, Barrow assented to a new, also much-delayed, Freedom of Information Act which is likely to facilitate anti-corruption oversight by media and civil society.

There are other bodies that have an anti-corruption function, such as The Gambia Financial Intelligence Unit, which primarily deals with money laundering, and The Gambia Public Procurement Authority, parts of whose mandate is to prevent corruption in public procurement. The National Assembly can also serve an anti corruption function. For example, in 2022, a parliamentary committee investigated the former minister of tourism.

...

イ ●BAMF [「Briefing Notes \(2024 年 2 月 5 日\)」](#)

Recent opinion poll on the reputation and work of police

One media outlet, citing an opinion poll conducted by the pan-African research network Afrobarometer, reported that 43% of Gambian citizens who took part in the opinion poll and had encountered the police said they had to pay bribes to obtain police assistance or to avoid problems, the nature of which is not known. The majority of citizens who sought

police assistance also said they found it difficult to get the help they needed while 33 percent said police use excessive force. However, they did not provide any details. It is estimated that 39 percent of the respondents said the police are actually involved in criminal activities. Twenty four percent of respondents believe the government is fighting against crime.⁵

注 5 The Standard: 43 percent of Gambians admit bribing police — 2023 survey, 01.02.24.

7. 兵役、強制徴集（非国家主体の）＜未調査＞

8. 司法制度・刑事手続

(1) 司法制度

ア EASO [「EASO COI レポート：ガンビア 国別フォーカス」](#)（2017 年 12 月）

司法行政には、政府によって制定された法律（憲法、制定法）、関連する裁判所の判決（英国の判例）、慣習法及び、イスラム法（シャリーア）等の、複数の法的根拠が存在する。

イスラム教徒に関連する家庭問題（婚姻、離婚、相続）に携わるシャリーア法廷（カディス法廷）及び地方裁判所（地区審判所）では、イスラム法が使われる。シャリーア及び慣習法は、地方裁判所（地区裁判所）及び村評議会による審理に適用される。慣習法は、氏族及び土地紛争に重要な役割を果たす。

※ 法務省入管局による仮訳

(2) 刑事手続

ア ●米国国務省 [「人権状況報告 2023 年 - ガンビア」](#)（2024 年 4 月 23 日）

d. Arbitrary Arrest or Detention

The constitution and law prohibited arbitrary arrest and detention and provided for the right of any person to challenge the lawfulness of their arrest or detention in court. The government generally observed these requirements.

...

9. 警察・治安部隊（刑務所等の状況含む）

(1) 国軍

ア EASO [「EASO COI レポート：ガンビア 国別フォーカス」](#)（2017 年 12 月）

1.9.1 ガンビア国軍（GAF）ガンビアには徴兵制度はない。男性も女性も、18 歳になると、志願して入隊することを許される。憲法に従って、GAF は、陸軍一

ガンビア国家軍（GNA）は海軍及び空軍で構成される。国軍の各部門は、それぞれ独自の司令官を擁する。ガンビア野戦軍及び、ガンビア国家憲兵隊（GNG）等の旧組織は、解散された又は、新体制に移管された。ガンビア国軍は、国防相／大統領に対する責任を負う。ジャメ前大統領は、憲法の下に資格を付与されるガンビア国軍の最高司令官の職に加え、国防相にも就任した。パロウ大統領は、現在も、国防相を務める。GNA は、総兵力およそ 1,000 人から 2,500 人と推定される。GNA は、2 個の歩兵大隊、1 個の工兵隊及び大統領親衛隊 1 個に分割されている。軍事基地は、パンジューノレ国際空港近傍のユンダムにある。その他の軍事基地は、ファジャラ、ユンダン、クダン、ファラフ

※ 法務省入管局による仮訳

(2) 刑務所

ア EASO [「EASO COI レポート：ガンビア 国別フォーカス」](#)（2017 年 12 月）

公立刑務所は、以下の 3 つである。

- ・パンジュールにあるマイル第 2 中央刑務所。この刑務所の 2015 年の定員は 450 人で、収監者数は 817 人で、あった。特別施設には、ガンビアで唯一の女性刑務所棟及び、保安棟が組み込まれている。長期服役囚は、マイノレ第 2 中央刑務所に収容され、死刑囚は、マイノレ第 2 中央刑務所の保安棟に収監される。

- ・パンジュールにあるジェ、シュワン刑務所。この刑務所の 2015 年の公式定員は 150 人で、収監者数は 201 人であった。特別施設は、少年棟である。

- ・ジャンジャンブレア／ジョージタウンにある刑務所。この刑務所の 2015 年の公式定員は 50 人で、収監者数は 88 人であった。

上記 3 箇所の公営刑務所に加え、警察署の多くも、刑務所又は監房を備えている。人権擁護団体から入手した情報によれば、ジャメ政権では、刑務所は、法的根拠もなく、国家麻薬取締局（NDEA）及び、国家情報局（NIA）によって運営されていた（セクション 1.9.3、国家情報局を参照）。

※ 法務省入管局による仮訳

10. 報道の自由

<2025 年 2 月 20 日更新>

ア ●ベルテルスマン財団 [「BTI 2024」](#)（2024 年 3 月 19 日）<ecoi>

2 | Political Participation

...

Like freedom of assembly, freedom of expression has improved significantly since the end of Jammeh's rule. There are still reports of intimidation and harassment of media professionals by the security services, but these are not a matter of policy or direction from the government but due to misunderstandings or a lack of training at the local level.

Likewise, there are occasional reports of journalists practicing self censorship, though the government does not, as a rule, censor publications.

The legal framework governing freedom of expression has largely remained unchanged since the Jammeh period (Jammeh’s administration routinely and with impunity violated its own laws), though freedom of expression and the press have been bolstered by court decisions. These include the Supreme Court stating that the criminalization of defamation is unconstitutional. The country also adopted an Access to Information Act in 2021, which is widely considered a boon to free expression. The Gambian government also allocated GMD 15 million (roughly equivalent to \$300,000) in assistance to print and radio media during the COVID-19 pandemic. This is the first direct assistance to non-government media since the country’s independence.

...

イ ●米国国務省「[人権状況報告 2023 年 - ガンビア](#)」(2024 年 4 月 23 日)

Freedom of Expression: On October 9, authorities arrested prominent human rights activist Madi Jobarteh, reportedly for antigovernment social media statements. On October 11, authorities released Jobarteh on bail. On November 9, police charged him with “seditious intention, incitement to violence, and false publication and broadcasting.” At year’s end, Jobarteh remained free on bail.

11. 宗教の自由

ア ●米国国務省「[宗教の自由に関する国別報告 2021 年 - ガンビア](#)」(2022 年 6 月 2 日)

The constitution provides for the freedom of religious choice, as long as it does not impinge on the rights of others or the national interest. The constitution prohibits religious discrimination, establishment of a state religion, and formation of political parties based on religious affiliation. The debate over whether the word “secular” should be included in the proposed new constitution had not been resolved at year’s end. The National Assembly did not debate the draft constitution’s provisions in its legislative session during the year. Prior to Ramadan, the government passed a bill that cut the daytime working hours of female civil servants, stating the decision was made in order to allow women to return home and prepare meals for their families to break the fast. According to media reporting, some Christians stated the action was discriminatory and questioned why they were not afforded a similar accommodation during Lent. According to media reports, political opponents used inaccurate rumors that one presidential candidate was an Ahmadiyya Muslim to disparage him during the campaign. In televised statements during religious holidays, President Adama Barrow stressed the need for continued religious freedom and tolerance.

...

Intermarriage between Muslims and Christians continued to be common. However, due to cultural and gender norms, women were generally required to convert to their husband's religion and raise all children in the husband's religion. It was not uncommon for persons of different faiths to live in the same dwelling, and observers said religious differences were widely accepted among family members and neighbors, with each jointly celebrating the religious events and holidays of the other.

12. 国籍、民族および人種

ア EASO [「EASO COI レポート：ガンビア 国別フォーカス」](#) (2017 年 12 月)

1.3.1 民族 ガンビアにおける最も重要な民族は、以下の通りである。

...

パロウ大統領は、マンディンカ族という最も大きな民族のメンバーである。前大統領のジャメは、ジョラの出身である。多くのガンビア人は、混合された民族の起源を持っている。

※ 法務省入管局による仮訳

イ 英国内務省 [「出身国情報報告 ガンビア \(仮訳\)」](#) (2013 年 11 月 5 日)

民族間の関係

9.03 ガンビアにおける事業を促進するための日付けなしのオンライン情報源である [Gambia.com](#) では、2013 年 8 月 23 日に閲覧したところ、次のように述べられていた。

「ガンビアでは 9 つの主要な民族集団が部族間の不和をほとんど起こすことなく隣合わせで生活をしており、それぞれが自民族の言語や音楽、文化的な伝統、又は鑄造システムさえも保有しているが、文化の相互交流や融合の度合いは増大している。この部族とは、マンディンゴ族(Mandinka)、ウォロフ族(Wolof)、フルラ族(Fula)、ジョラ族(Jola)、Serehulae 族、Serreher 族、アク族(Aku)、レバノン人、及びモーリタニア人である。他民族的な表現は増加しているが、各民族によるそのアイデンティティを再確認しようという探求は続いている。全体として、これらの民族がセネガンビア(Senegambia)社会の一面を表している。

「しかしながら、何世紀にもわたって移民や民族間の結婚が広がったことで、人々を血や民族性でもって分類することはますます難しくなっている。」 71

9.04 Freedom House による「Freedom in the World 2013」報告書(2012 年対象、2013 年 5 月発表)では、「ガンビアの多様な民族集団は比較的調和して共存しているが、ジャメ(Jammeh)が軍及び政府において自身の属するジョラ(Jola)民族の者に対して優遇措置をとっているという非難があがっている。」72(Political Rights and Civil Liberties)

13. 出入国および移動の自由

略称	
ACCORD	オーストリア出身国・庇護研究ドキュメンテーションセンター
ACLED	武力紛争位置・事件データプロジェクト
AI	アムネスティ・インターナショナル
ARC	難民調査センター
BAMF	ドイツ連邦移民難民庁
CEDOCA	ベルギー難民及び無国籍者庁出身国情報部門
CIA	米国中央情報局
CNDA	フランス庇護権裁判所
CRS	米国議会調査局
DFAT	オーストラリア外務貿易省
DIS	デンマーク移民庁
DRC	デンマーク・レフュジー・カウンスル
EASO	欧州難民支援機関
FIS	フィンランド移民庁
HRW	ヒューマン・ライツ・ウォッチ
ICG	インターナショナル・クライシス・グループ
IDMC	国内避難民監視センター
IRBC	カナダ移民難民局
IRDC	アイルランド難民ドキュメンテーションセンター
ジェトロ	日本貿易振興機構
JICA	国際協力機構
Lifos	スウェーデン移民庁出身国情報データベース
Landinfo	ノルウェー政府出身国情報センター
MRGI	マイノリティ・ライツ・グループ・インターナショナル
OECD	経済協力開発機構
OFPRA	フランス難民・無国籍庇護局
OHCHR	国連人権高等弁務官事務所
OSAC	米国海外安全保障評議会
RRTA	オーストラリア難民再審査審判所
RSAA	ニュージーランド難民地位不服申立機関

RSF	国境なき記者団
SEM	スイス連邦移住庁（旧スイス連邦移民局）
UDSC	ポーランド外国人庁
UKIAT	イギリス移民難民審判所
UKUT	イギリス上級審判所
UNHCR	国連難民高等弁務官事務所
USCIRF	米国連邦政府国際宗教自由に関する委員会
UDSC	ポーランド外国人庁